



福知山公立大学『田舎力甲子園』2019

溢れる『地元愛』蘇れ！我が母校  
『モノではなく心』から生み出す真の地域活性化とは

2019年5月1日

代表 内田 奏杜

安部小Project

## 《目次》

### 序章

#### 第1章 現状の認識と定義

- 1-1 鳥取県八頭町の概要
- 1-2 安部小学校の概要
- 1-3 安部小Projectの概要

#### 第2章 安部小Projectの設立と活動

- 2-1 Project設立に至る経緯
- 2-2 活動事例紹介
- 2-3 Projectに対する代表の思い
- 2-4 夏祭りにおいて工夫した点
- 2-5 活動を通して学んだこと
- 2-6 Projectの今後

#### 第3章 安部小Projectの評価

- 3-1 表彰等の記録
- 3-2 取材及び講演等の記録
- 3-3 地域の方及び県外中高生から寄せられた声
- 3-4 Projectメンバーからの声

#### 第4章 真の地域活性化とは

あとがき

参考文献

資料1：安部小Project 広報チラシ

資料2：第1回安部地区総合祭『安部っ子夏祭り』運営企画書（別紙）

## 序章

「地域活性“化”」とはなんだろうか。

今や社会問題となっている、少子高齢“化”や過疎“化”。語尾に“化”がつくと、現在進行形であり「今、変わっている」という意味である。地方創生について国が政策を発表してから、各自治体が「田舎の再生事業を展開」といった、俗に言う地域活性化を示すベクトルに沿って活動をしている。そして近年は、ゆるキャラの誕生、観光施設の充実、ICTを取り入れた事業、SDGsを取り入れた事業といった1つの固定概念の中で地域活性化が行われている。私はこの一連について違和感を覚える。私は地域というのは不定形であり、時代によって自然と変化するものだと考える。そのため、先ほどの固定概念に捉われる必要はないのではないだろうか。“今、変わっている”とは、無理に変えようとするのではなく、もとある資源や想いを尊重し時代に合わせて自然と変わっていくことを指す。近年、様々な取り組みがなされているが、固定概念に捉われて「地域活性化」をすることを最大の目的にしたために、外部から人が来て効果があるように見えるが実際は地域の人が主で関わることができず、本質的な地域の活性化に繋がっていないというケースが多い。

本論で私の設立した安部小Projectについて紹介するが、あくまでこのProjectは「地域活性化」をすることが最大の目的ではない。ある1つのこと(これが最大の目的)を間に挟み、それが作用することで地域活性化に繋がる仕組みにしている。是非、皆さんの地域に置き換えて「真の地域活性化とはなにか」考えていただきたい。

この論文は代表の内田が執筆者である。安部小Projectを運営するとともに、教育と地域活性化について1年間研究し論文を執筆した。研究テーマは「学校教育における地域活性化とはなにか?～総合的な学習の時間のシラバス作成とその実践～」で小学生の『地元愛』を育むためにはどうすべきか研究した。課題設定にあたり統廃合を経験した地元小学生にアンケートを取り結果を根拠とした。そして、結果や文部科学省の学習指導要領に基づき小学校の総合的な学習の時間のシラバスを作成し、実際に模擬授業を実施した。この論文では、それらの研究も踏まえて執筆する。(私の在籍する青翔開智高等学校やメンバーが在籍する各校と安部小Projectは直接的な関係がないため学校への問い合わせはご遠慮願います。)

### 執筆者の紹介

名前：内田 奏杜 (Kanato Uchida)

学年：高等学校3年

略歴：八頭町立安部保育所(H30閉所)

八頭町立安部小学校(H28閉校)

学校法人鶏鳴学園青翔開智中学校

学校法人鶏鳴学園青翔開智高等学校

出生：福岡県豊前市

出身：鳥取県八頭町

在住：鳥取県八頭町



幼少期から自宅近くの若桜鉄道安部駅に通い八頭若桜谷の風景を眺めてきた。母校の安部小学校が閉校し、卒業した幼馴染の中高生とともに『安部小Project』を平成30年に設立。校舎内清掃活動や安部っ子夏祭りなどを開催し大きな反響を呼ぶ。また、教育と地域活性化について、全国各地で『モノではなく心』の理念から生まれた『地元愛』をテーマに講演やパネラーを務めている。(各講演会時の紹介文を要約)

## 第1章 現状の認識と定義

本章では、私の在住する地域及び私が設立した安部小Projectの概要を主に述べる。本章で述べる概要及び定義は、以降の本論文においてすべてに共通するものである。なお、一部個人情報等を掲載しているため、インターネットやチラシ等で不特定多数の者に発信する場合は修正テープ等で白塗りしてからにすること。

### 1-1 鳥取県八頭町の概要

鳥取県の南東部に位置する八頭町は、平成の大合併により郡家町と船岡町と八東町の計3町が平成17年3月31日に合併してできた町だ。

『人が輝き未来が輝くまち八頭町～豊かな自然とともに みんなでつくる ふれあいのまち～』を町の将来像としている。人口は17,078人(令和元年6月1日時点)で総面積は206.71平方キロである。町の中心を八東川が流れそれに沿って第三セクターの若桜鉄道が走行する。沿線には特産品の西条柿や花御所柿、二十世紀梨などが見られ、鳥取と姫路を結ぶ国道29号線のうち、八頭町内はフルーツロードとして親しまれている。しかし、人口ランキング最下位の鳥取県の中でも山間部のため、人口減少及び少子高齢化が著しく進行している。合併した平成17年の八頭町総人口は19,434人であり、14年で約2,300人減少した。合併前の3町それぞれで見ると特に山あいにある八東町では急速な人口減少が進んでおり、廃村になった集落もある。また、次章以降で取り扱うが学校の統廃合が進んでいる。八頭町では『YAZU INNOVATION PROJECT』として廃校舎に大手IT企業を誘致してバスの自動運転実験をしたり、石破茂議員の地元として八頭町のPR用CMを作成したりと、日々、地元住民と共に地域振興に奮闘している。また、伝統文化や芸能も数多く継承されており、因幡しゃんしゃん傘踊りや麒麟獅子舞などが披露される。若桜鉄道の各駅の駅舎は昭和5年に建設されてからそのままであり一部を除いて、有形文化財に登録されている。四季折々の景色が楽しめる風情ある地域である。



図1.八頭町の合併図



図2.八頭町の田園風景(筆者撮影)

町総人口は19,434人であり、14年で約2,300人減少した。合併前の3町それぞれで見ると特に山あいにある八東町では急速な人口減少が進んでおり、廃村になった集落もある。また、次章以降で取り扱うが学校の統廃合が進んでいる。八頭町では『YAZU INNOVATION PROJECT』として廃校舎に大手IT企業を誘致してバスの自動運転実験をしたり、石破茂議員の地元として八頭町のPR用CMを作成したりと、日々、地元住民と共に地域振興に奮闘している。また、伝統文化や芸能も数多く継承されており、因幡しゃんしゃん傘踊りや麒麟獅子舞などが披露される。若桜鉄道の各駅の駅舎は昭和5年に建設されてからそのままであり一部を除いて、有形文化財に登録されている。四季折々の景色が楽しめる風情ある地域である。

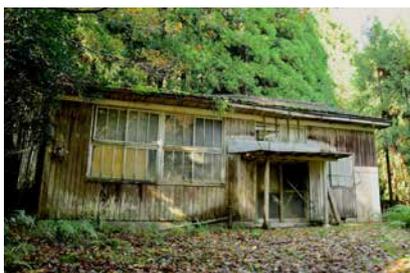


図3.八頭町の景観(筆者撮影)

## 1-2 安部小学校の概要

八頭町立安部小学校は明治7年に安井学校として開校し平成28年度をもって児童39名で閉校となった小学校である。八頭町合併前の八東町に位置し、合併直後の学校適正配置案に基づき統廃合となった。6つの集落からなる校区全体人口は2000年は1,072人であったが、2015年には903人になっており15年間で約170人、1年で平均約11人ずつ減少傾向にある。これらより、社会増減や自然増減などを考慮せずに数値のみで計算すると、約80年後には安部校区は消滅することになる。また、小学生の人口推移はピークの297名(昭和20年度)を境に児童数は激減し閉校時には39名となった。安部小学校の教育方針は『至誠・勤労・自治・奉仕』と、基本理念である『ふるさと安部を愛し、豊かに、たくましく「生きる力」をもって安部っ子の実践力を生み出す』という2つの柱がある。



図4.安部小学校外観(筆者撮影)

## 1-3 安部小Projectの概要

上記の通り安部小学校は閉校となった。卒業生である私たちは、閉校してから校区行事の消滅や耕作放棄地の増加など地域の急速な衰退を感じ、中高生団体『安部小Project』を平成30年4月に設立した。現在は15名が正式なProjectメンバーとして活動しており、これに加え小学生含む約10名が活動をサポートしている。本Projectは、上記の2つの柱に基づいて『溢れる「地元愛」蘇れ！我が母校』をスローガンに活動している。活動内容は、月に1回の廃校舎内清掃活動、安部校区の住民全員を参加対象にした安部っ子夏祭りの企画運営、各集落行事への参加や雪文字作成などの季節行事の実施である。本Projectは「地域活性化」を最大の目的にするのではなく『自分たちの「やりたい!」を自分たちの学び舎で実践し、やっつけのける中で地域の方と交流し「地元愛」を育み、その活動の作用で地域に貢献する』ことを最大の目的として活動している。特に、夏祭りは『地元愛』を具現化する場所として実施し、初開催にもかかわらず約400人の来場者数を記録した。



図5.安部小Project集合写真(Project資料)

氏名	在籍学校及び学年	氏名	在籍学校及び学年
内田 奏杜	青翔開智高等学校3年	木原 亮	鳥取工業高等学校2年
樋引 菜々穂	鳥取東高等学校2年	藤田 康太	鳥取工業高等学校2年
尾崎 歩	八頭高等学校2年	佐納 卯美	青翔開智高等学校1年
藪田 颯人	八頭高等学校2年	尾崎 菜々美	鳥取城北高等学校1年
岸田 歩夢	八頭高等学校2年	飯田 光希	八頭高等学校1年
藤原 一真	八頭高等学校2年	山部 光槻	八頭中学校3年
木原 碧	八頭高等学校2年	佐々木 紳佑	八頭中学校3年
藤田 侑省	鳥取湖陵高等学校2年		その他サポートメンバー

図6.安部小Project名簿

## 第2章 安部小Projectの設立と活動

本章では、安部小Projectの設立や活動に対する想いを中心に私たちの活動について紹介する。第4章の真の地域活性化について安部小Projectに置き換えて考察している。なお、第1章1-3と重複するものがある。

### 2-1 Project設立に至る経緯

活動のきっかけの根源となった出来事は、安部小学校の閉校である。小学校が地域の要となる存在であったことから閉校後の校区は想像以上の変貌を遂げた。昔から「フルーツの里」として柿や梨などの栽培が盛んに行われており、総合的な学習の時間には小学生が近所の農家の田畑で農業体験をしていた。農家は「小学生が体験に来るから」と田畑を維持してきた。しかし、閉校後は高齢化が進み多くの田畑が放置され、我が家も柿の収穫体験を引き受けていたが、柿の木を切ることになった。また、統廃合後はスクールバスでの登下校により通学中の地域交流がなくなった。集落の中路は人の気配がまるでない。「自分たちがなんとかしないと後がない」と思った。しかし、私は何をすべきなのか分からなかった。

そのような中、閉校した年の夏、私の弟(当時小学校5年生)が「安部小の校庭で遊んでいるけど草が生えて遊びづらい」と声をかけてきた。そこで私と同じ学校に通う佐納と共に校庭の草取りを真夏の炎天下の中行った。校庭の草取りをしている時に、校舎内が閉校時のままで片付けができていないことに気がついた。そこで校舎内清掃を実施したいと考え町役場にその旨を伝える内容を八頭町ホームページの町民意見の投稿欄に投稿した。これが私たちの

現在の活動の視覚的な根本である。そして、閉校した年の10月に中高生5人で校舎内清掃を行った。以後、毎月清掃活動を実施する中で、あるメンバーから「閉校して校区行事がなくなったから自分たちで納涼祭みたいなのをしてみたい」という意見が出た。全員一致で納涼祭を「やりたい!」となり、人員の確保や運営組織の確立を目的に平成30年4月に安部小Projectを設立した。募集をかける際は「安部校区の地域活性化に興味がある人!」ではなく『自分たちの「やりたい!」を自分たちの学び舎でやってのける!』というテーマでメンバーを募集した。中高生が少なく皆、幼馴染の感覚かつ”中高生のノリ”もあってすぐにメンバーが集まった。こうして安部小Projectを設立し始動した。



図7.Projectメンバー募集チラシ



図8.校舎内清掃活動による効果

## 2-2 活動事例紹介

安部小Projectの主な活動は、定期活動の校舎内清掃活動を軸として年に1回の安部っ子夏祭りを開催する。また不定期で講演やパネラーを代表が務めている。

校舎内清掃活動は平成29年10月から毎月続けている。Projectメンバーの在籍校がそれぞれ異なるため、定期考査や部活等の予定を考慮しながら毎月第三日曜日を目安に行なっている。清掃活動では、ただ掃除をするだけではマンネリ化するため、校舎内で鬼ごっこをしたり人生ゲームをしたりするなどレクリエーションを通して自分たちの古き学び舎で時間を過ごし、安部小学校在学時の思い出を振り返る。また、定例会を行い安部っ子夏祭りの準備を行ったり『地元愛』を育む活動をしている。具体的には「安部小学校の校舎の活用方法を考えよう！」と題してワークショップ(Projectメンバーのみ)を代表の内田が企画して行った。閉校舎の活用について考えるにあたり、まず知識や想いを共有した。安部地区や小学校についてのテーマを出して個人が付箋に書き、それをグループ内でまとめた。後半は、小学校の校舎跡地をどのように活用すれば良いかについて、個人でマインドマップを作成し、簡易企画書を作成した。それをもとに全体討論で情報交換し、実現するためにはどのようなことをすべきか全体で討論した。

図9.定例会

テーマ1：安部小学校に通ったときの思い出

テーマ2：安部小学校の良いところ

テーマ3：安部小学校が閉校してどうなった？

テーマ4：過疎地域ってどんな地域？

テーマ5：小学校の統廃合って必要？不要？



大人は参加せず中高生だけでワークショップをやったが、意見が活発に出て非常に有意義な時間となった。これらの活動も目的としている『地元愛』の育成につながると考える。

安部っ子夏祭りは、平成30年8月12日に安部小学校体育館を会場に開催した。テーマは安部小Projectの活動目的に合わせて『地元愛 ～安部っ子パワー全開！中高生の地元愛で八頭を元気に！！』とした。代表である私は、第1回は校区全体のお祭りにしたかったため校区内の全集落に屋台出店と伝統芸能発表をお願いした。屋台は飲食店として10品以上の品が、ステージでは手踊りや皿回し、大太鼓が披露された。また『地元愛』を表現するために映画を作成し上映した。資金は八頭町の補助金制度を活用した。当日は、初回にもかかわらず約400人の来場があり大盛況に終わった。夏祭りの準備や当日の苦勞、学んだことなどは以後説明する。また、安部っ子夏祭りの企画詳細内容は資料2をご覧ください。



図10.安部っ子夏祭りの様子とチラシ

## 2-3 Projectに対する代表の想い

ここまで何度も述べた『地元愛』だが、これも不定形のものである。そして私が常日頃から大事にしている『モノではなく心』も不定形だ。ここで、私が講演をする時にいつも紹介する私の『地元愛』の概念を紹介する。

私は「安部に育てられた」と自信を持って言うことができる。理由は主に2つある。1つ目は、私が2,3歳の頃、親と一緒に最寄りの安部駅まで散歩をし、列車に手を振っていた時だ。私は記憶にないが、毎日通っていたこともあり車掌さんに顔と名前を覚えられ「かなとくん、こんにちは」と声をかけられていたそうだ。そして、15年経った今でも、列車に乗ると「内田くん、最近調子はどうだえ？頑張れよ！」と声をかけていただける。ローカル鉄道だからこそ可能なことであって、都会でこんな経験をするのはまずないだろう。2つ目に、私は小さい時から近所の方々によく声をかけていただいていた。集落到同級生がいないため、下校時は家まで一緒についてきてくださった。私は当時、鉄道が好きで身勝手にその話ばかりしていたが、集落の方々は笑顔に何時間も話にのってくださった。今でも「安部小Projectがんばるとるがな！新聞見たぞー！」と声をかけていただける。人とのコミュニケーションによって『地元愛』は育まれるのだろう。近年「人口減少問題」や「少子高齢化問題」を解決すれば地域に活気が戻ると言われることもあるが、単純に考えて無理である。合計特殊出生率は2.07を下回ると人口が減少するという1つの指標であるが、1位の沖縄県でさえ1.9で2.07に届いてない。地域の活気を上げるならばやはり地元民の意識に尽きる。「鳥取には何もない」といった「心の過疎化」が問題である。しかし、世代問わず心が通い『地元愛』があれば「心の過疎化」は進行しない。「モノの過疎化」が進んでも「心の過疎化」は進行させない。これが『モノではなく心』である。

私は安部の良さを外部に発信するのではなく同じ中高生に共有したかった。そして『地元愛』のある中高生として大人になった時に皆が「ああ、安部に住んでいて良かったな」と思えるようにしたかった。私が安部小Projectを中高生団体にした理由はそこにある。もし地域活性化をするならば、地域活性化に興味のある多世代の人たちを集めて団体をつくる。中高生団体にしたのは、「地域活性化に興味のない子でも、自分たちの興味関心が地元愛の創造そして地域活性化に繋がる」と考えるからだ。正式メンバーは15名だが、募集をかけた時点で地域活性化に興味があるのは自分を含めて3名。私は設立する前からこうなることは承知していたので「地域活性化ではなく自分たちのやりたいことをやれる場にしよう！」と言って募集をかけた。それから1年、地域活性化に興味のなかった子も自分たちの「やりたい！」ことをやったことで、設立当時は消極的だったのが、今では自分たちで安部のことについて考察したり、第2回安部っ子夏祭りの企画内容を率先して考えてくれるようになった。これが『地元愛』を育む活動である。これからは学生がもっと自発的に動く必要があると社会は求めている。しかし、やる気があってもチャレンジしにくい環境にあるのが現状だ。鳥取県で高校生が地域について考えるイベントに参加した際、やりたいことがあるがやれないままにいる同級生、何かやりたいけど何をやればいいのか分からない同級生などが多くいた。閉塞的な学校という環境ではない課外活動としてProjectを設立した。

地域活性化はあくまであることをした作用によって起きるものである。我々は『地元愛』を育みそれを具現化することを目的に実施した夏祭りが、間接的に地域活性化に繋がっている。逆に「安部っ子夏祭りをするための安部小Project」では全く意味を成さない。これが継続が困難になる理由である。自分たちの「やりたい！」ことを自分たちの学び舎でやって地域の方と交流し『地元愛』を育むことが「心の過疎化」を防ぎ、地域の活性化に繋がるものだと私は考える。だからこそ、今の活動内容はこれ以上でもなくこれ以下でもない。そして『地元愛』は各々が定義するものであり不定形なのだ。

## 2-4 夏祭りにおいて工夫した点

夏祭りは上述の通り「地元愛を具現化する」ことを目的に開催した。そのため、各集落に屋台出店と伝統芸能発表をお願いした。また、当日は大勢の方に来場していただきたく、八頭高校書道部による書道パフォーマンスや青翔開智中高軽音部による演奏など、近隣の学校に出演していただき新鮮な夏祭りにした。『地元愛』をテーマに中高生で映画を作成し当日上映した。準備では、校区内でも思想や文化は昔から違う部分があり苦労する場面もあった。中高生ではできないことも多々あった。特に資金調達では町の補助金を使用し、町役場の方には補助金以外にも様々なアドバイスをいただいた。広報チラシ印刷の際には青開開智中高で印刷をさせていただき印刷費を抑えるなど費用削減にも努めた。各在籍校で生徒会執行部だったメンバーも数名おり、当時の経験を活かして安部校区にはどのような手段手法が適しているかということも自分たちで考えた。夏祭り直前には各集落の行事の中で実施の宣伝もした。また、公式Facebookを作成し情報発信を続けている。

## 2-5 活動を通して学んだこと

中高生の時に団体を設立し運営する経験は学校という閉塞的な環境でしようと思っても難しい。夏祭りを実行するにあたり、資金として八頭町役場から補助金をいただいたり、行政財産使用届、営業類似行為書などの文書作成、さらには傷害保険契約など苦労も多いが学校では経験できないことを自ら体験することができた。活動をしていく中で地域の協力によって私も含めメンバー全員が大きな知識や経験を得ることができたと実感している。そして「お前らがするなら協力しないわけにはいかんだ」と協力してくれた校区の方、屋台出店やステージ出演に携わっていただいた方、また、本来の業務では補助金のやり取りのみのところを運営や広報などでの的確なアドバイスをさせていただいた町役場の職員の皆さま。長期に渡って取材をさせていただいたメディア関係の皆さま、課外活動として応援していただいた青翔開智中高の皆さん。これだけたくさんの方々にお世話になり安部っ子夏祭りと安部小Projectは成り立っていることを改めて考えると、閉校になったものの1つの学び舎として安部小学校は残っており、これからも地域に欠かせない存在になると感じた。

## 2-6 Projectの今後

今後も『地元愛』を育む活動として自分たちの「やりたい！」ことを実践していく。しかし、閉校したことで安部小学校を卒業した中高生が数年後には消滅する。そこで安部小Projectでは、統合した八東小学校(統廃合を経験した児童102名)でアンケート調査を行った。重要な質問事項は下記の2つ。

Q1.以前通っていた小学校が閉校したことで寂しさを感じるか

Q2.小学校が閉校したことで地域の活気が薄れたと感じるか

Q1では全体の75%が寂しいと回答したが、Q2では全体の10%のみ活気がなくなったと回答した。この60%の差は「学校に対する想いは強いが『地元愛』は弱い」というところにある。すなわち、安部小Projectは閉校した学び舎で『地元愛』を育む活動をしているため、八東地域に視野を広げると活動が展開できると考える。また、令和元年度の夏祭りは町教委と八頭中学校のボランティア団体に協力してもらい同世代の中高生と活動を通して交流する。

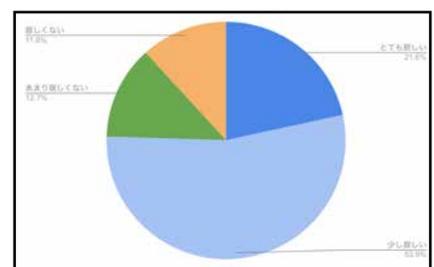


図11.Q1の回答分布

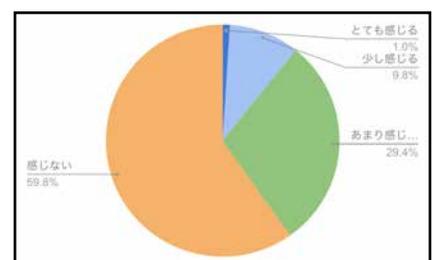


図12.Q2の回答分布

### 第3章 安部小Projectの評価

本章では、私が設立し代表を務めている安部小Projectの評価を紹介する。

#### 3-1 表彰等の記録

安部小Projectの活動において客観的な評価を得ること、全国区へと発信することを目的として『PRUDENTIAL SPIRIT OF COMMUNITY 第22回ボランティア・スピリット・アワード』（主催：プルデンシャル生命/ジブラルタ生命/教育新聞社 後援：文部科学省/日本赤十字社）に応募した(以下、SOCとする)。全国から1,631通の応募のうち、中四国ブロックにおいてブロック賞を受賞し、11月に岡山で開催された中四国ブロック表彰式、12月に東京で開催された全国表彰式に出席した。SOCは『称える・交流する・発信する』の三本柱で、ボランティア活動に取り組む中高生を支援するプログラムである。ボランティア活動をする個人または団体に各賞を贈り、3日間の中で自分の活動を発信したり全国の仲間の活動を吸収することができる。全国から集まった個性ある40人。何より感じたのは『主軸があってブレないが、必ず皆の活動を認めて自然と互いに高め合う仲間』だったということだ。学校やその他の集団の中で、個性あるメンバーが集まっても多様性を認めることができず協調性が欠けてしまい、結果として各々の力が出しきれないという状況をよく目にしてきた。しかしながら、SOCでは誰一人として落ちこぼれることなく自身の想いを皆に伝え、初めて出会った全国の仲間と共に3日間で多くの刺激を受けた。今でも連絡を取り合い相談する“仲間”である。



図13.SOC全国表彰式集合写真



図14.SOC全国表彰式出席メンバー

また、鳥取県内に活動を周知させることを目的に『平成30年度トットリズム活動表彰』（主催：トットリズム[鳥取県]）に応募した。こちらは、最優秀賞と若者活動部門優秀賞を同時受賞し活動への自信に繋がったほか、県内の活動表彰ということもあり県内の団体や行政の方々から声をかけていただけるようになった。SOCとは違い、県内で活躍される大人の方々や企業の方々と交流することができた。また、この受賞をきっかけに地方紙の日本海新聞から取材を何度か受けるようになり、新元号令和特集で新聞の第一面に掲載されたこともある。



図15.トットリズム活動表彰集合写真

さらに、SOCと似たプログラムで『全国高校生マイプロジェクトアワード』（主催：NPO法人カタリバなど）にも応募した(以下、マイプロとする)。こちらは書類選考は通過したものの全国大会に出場することはできなかった。しかし、マイプロは規模が大きく多岐にわたる分野に触れることができた。また、SOCのメンバーとの再会もあり自分たちの活動に磨きをかけることにつながった。当日割り当てられた班からいただいたコメントは3-3で紹介する。



図16.マイプロ関西大会集合写真

以上のプログラムを通して、安部小Projectの基礎理念や方向性に加えて活動内容の改善を行うことができた。次年度以降も可能であればプログラムに応募してProjectとしてのキャリアを積みたい。なお、ここで紹介した受賞記録は、“策”ではなく安部小Projectの活動に対してである。この論文は“真の地域活性化”を実行するための策を述べたものであり、初公開の内容である。

3-2 取材及び講演会の記録

安部小Projectの活動は客観的に見ると「廃校舎を活用して中高生が活動している」という点から新規性と話題性があるということで、ありがたいことにたくさんの取材を受けたり、講演やパネラーとして出演している。なお、八頭町ケーブルテレビで安部っ子夏祭りの特番(10分)を1ヶ月間毎日5回ほど放送していただいた。

掲載日	掲載
2018.06	毎日新聞
2018.07	鳥取県政だより
2018.07	鳥取市広報誌つばさ
2018.08	朝日新聞
2018.09	日本海新聞
2018.12	わかてつ便り
2019.03	日本海新聞
2019.03	中国新聞
2019.04	情報誌 いまと、これから。
2019.05	日本海新聞 (第一面掲載)

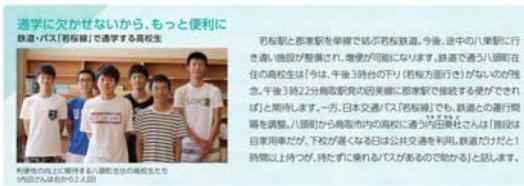


図17.取材記録

年月	概要
2018.03	邑南町長と地域について考える
2018.10	若桜鉄道88周年記念事業
2019.01	地元高校生×若手移住者



図18.講演&パネラー記録



### 3-3 地域の方及び県外の中高生から寄せられた声

安部っ子夏祭りを開催した際にいただいた地域の方の声や、SOCやマイプロの際にいただいた県外中高生を紹介する。

#### 【地域の方の声】

- ・若い人が全く組織のないところから、こんな催しをしてくれるのは非常にありがたい。
- ・4ヶ月という短い期間でここまで創り上げたことに感動。是非、来年度以降も継続してほしい。
- ・閉校前までであった校区民運動会に代替して私たち大人も交えて盛り上げていきたい。
- ・大人以上の活動で素晴らしい。安部小学校最高！
- ・若者の力はすごい。閉校という寂しい出来事を逆転した取り組みで私たちも頑張りたい。
- ・校舎内清掃活動をProjectのみでやっていると聞いた。年末などは大人も参加したい。
- ・補助金活用や保険契約など大変だったと思うが本当によく頑張った。素晴らしい。
- ・代表の『モノではなく心』という理念はものすごく共感した。
- ・『地元愛』ある夏祭りで非常に良かった。
- ・これからは若者中心。大人はそれをサポートしていきたい。本当によくやった。
- ・10人ちょっとの運営者で400人の集客はすごい。それも中高生。
- ・これぞ今後の教育。自ら学び自ら社会に飛び込む姿はお手本です！
- ・「地域活性化を最大の目的にするのではなく自分たちのしたいことをする」これが良い。
- ・代表が校歌をピアノ伴奏している時に涙が出てきた。安部小Projectに感謝。
- ・学校って素晴らしい。地域って素晴らしい。そしてあなたたちの活動がとっても素晴らしい。
- ・若者の力ってすごい。そこらへんの企業や団体のイベントより軸がある。
- ・中高生のノリでやったと聞いたが、それがものすごく大事。これからも頑張ってください！
- ・安部の子どもは本当にしっかりした子が多い。『地元愛』非常に良いです。
- ・自分たちも中高生の時にこんな祭りがしたかった。ん？今からでも遅くないか(笑)頑張れよー！
- ・『地元愛』があれば『心の過疎化』は進まないという言葉に感銘を受けた。
- ・代表の熱意はパフォーマンスではなく共感できるひとつの教えのように感じた。
- ・意義あるものだ。これからも頑張ってください。
- ・代表の目指す未来像が非常に面白い。是非これからも頑張ってください！
- ・教育委員会などと連携して中高生の魅力的な存在をアピールしてほしい。
- ・閉校して安部小卒の子がいなくなるけど、安部小Projectは今後も残してほしいな...
- ・Projectもよく頑張っているが、集落全体で協力していて良い雰囲気だった。
- ・運営企画などを見る限り役場の協力体制が非常に良かったように感じる。
- ・地区公便りで祭り内容が発信されていて良かった。今後も継続してほしい。
- ・校歌に『理想に燃ゆる若人』とあるのはまさにこれのことだろうと感じた。
- ・青年団として来年以降も応援したい。頑張れ！安部小Project！！
- ・若者の可能性は本当に測りきれないと感じた。本当にすごい...
- ・よく異なる学校に通いながら準備したと思う。LINEで会議とかすごいですね。
- ・学校とは違って社会の場でよくやった。胸を張って頑張ってください！

この他、たくさんの方の声を受けているが割愛する。

## 【県外中高生の声】

- ・心の過疎化の進行に歯止めを…！地元愛ものすごく伝わりました！！鳥取にしかない要素をもっと活かすといいと思いました♪大人も子供も楽しめるようなことで心の過疎化を止めてください！『モノではなく心』の理念から生み出された『地元愛』Good！！（岡山県・高校生）
- ・自分たちの『地元愛』で母校の閉校という寂しさを乗り越えたことにすごさを感じました。私も似たような活動をしていますが、プレゼンされていた『モノではなく心』を私も大事にしたいと思います！プレゼンの熱意から「本当にこれをやりたいんだ！」っていうのがよく伝わりました。これからも頑張ってください！！（広島県・中学生）
- ・自分たちでイベントを企画してそれを実際にやり遂げていること自体がまずすごいなと感じました。『モノではなく心』と『地元愛』をテーマにされた熱意あるプレゼンで聞き応えがありました。もっとお話し聞きたいです！（大阪府・高校生）
- ・『モノではなく心』とKeyWord『地元愛』を聞いて鳥取行きたくなりました！地元愛は私も活動内外でとても大切にしています！雪文字は羨ましい…(笑)こっちは降らないです…巻き込み力Good！やっぱりこれ書きながら『地元愛』大切だなって思いました。地元の良さを自分たちがまず知る『地元愛』。そして地元愛を育む作用で地域活性化という考え方に私も何か気づかされた気がします。中高生主体で楽しそうなプロジェクトだから私も参加したい！(笑)これからも頑張ってください！！（和歌山県・高校生）
- ・『モノではなく心』という考え方がステキだと感じました。私も地元でまちづくりの活動をする中で『地元愛』ってとっても大事だと思っています。今、地元愛を育んでもらえるようにまちの活性化に向けたプロジェクトを私たちも創設しています。共感できる点が多くありました。これからもお互い頑張っていきましょう！！（岐阜県・高校生）
- ・プレゼンの熱意から『地元愛』の重要性を改めて感じました。たくさんの方々を巻き込みながら活動を広げていらっしゃることにすごさを感じました。（京都府・中学生）
- ・安部小Projectさんの活動の内容もプレゼンも1週間経った今でもよく覚えています。あの熱意あるプレゼンで私の考え方も少し変わったような気がしました。またお会いできたら嬉しいです。これからも活動頑張ってください。（神奈川県・高校生）
- ・今でも熱意あるプレゼンを覚えています。私は熊本地震で被災しましたが『地元愛』があったからこそ今、地元でボランティアをしています。遠いところですが、是非またいつかお話を聞かせてください。鳥取に行く機会があったら連絡させていただきます！（熊本県・中学生）
- ・SOCの3日間ではあまりお話できなかったのですが、気になっていたもので連絡させていただきました。『モノではなく心』という内容に特に共感しました。ただ閉校舎を活用するのではなく『地元愛』を育みその作用で地域活性化を図るとするのは奇抜なアイデアだと感じました。これからも頑張ってください！！（東京都・中学生）
- ・『モノではなく心』のプレゼンを聞いて、ボランティア活動だけでなく日々の生活にも繋がる話だなと感じました。そのような環境下にある鳥取に行ってみたい！（静岡県・中学生）
- ・安部っ子夏祭りの企画、とても勉強になりました。私の町は人口が500人くらいで同じように過疎地域ですが、私も『地元愛』があればその地域は残ると思っています。ただ方法として何をすれば良いか思いつかなかったのですが、安部小Projectさんのような祭りを企画してみたいと思いました！企画手順など良かったら教えてください！！（長野県・中学生）

この他、たくさんのお声をいただいているが割愛する。

### 3-4 Projectメンバーからの声

部活があるので参加するか悩んだけど、小学校時代の友達とまた話せるのはいいなと思って参加した。中高生のノリで始めたけど、いろんところから協力してもらって、やり甲斐があるなと思った。ほんとに楽しかった。あんなにきれいな校舎だったのに、ほこりやカメムシだらけになって、人がいないときみしいなと思った。学校がなくなったのはさみしいから、盛り上げていきたいなと思った。勉強や部活などで忙しい毎日だったが、母校のためにと参加した。同級生はもちろん他学年との繋がりも増えたことで、楽しく充実した日々を過ごすことができた。また、このプロジェクトも良いものにする事ができた。



図19.活動様子

## 第4章 真の地域活性化とは

序章で「地域活性“化”」とはなにか問いかけた。最初に地域活性化の定義を敢えてしていなかったもので、ここで述べる。一般的な地域活性化とは「各地域がそれぞれの特徴を活かし、自律的かつ持続的で魅力ある社会を作り出すこと」である。つまり、地域に住む人々にとって住みやすいようにしていくこと。もとある資源を大切にそれを活かしていくことなのだ。したがって、活動をアピールするために新たなことを創出したり変えていくものではない。地域活性化はあくまであることをした作用によって起きるものである。安部小Projectは『地元愛』を育みそれを具現化することを目的に実施した夏祭りが、作用で地域活性化に繋がっている。逆に「安部っ子夏祭りをするための安部小Project」では全く意味を成さない。これが継続が困難になる理由である。自分たちの「やりたい！」ことを自分たちの学び舎でやって地域の方と交流し『地元愛』を育むことが「心の過疎化」を防ぎ、地域の活性化に繋がるものだと私は考える。自分たちの町を愛す『地元愛』を謙虚に育み、それを地域の人々と共有し、団結して1つの物事に取り組むことで現れた成果こそ、真の地域活性化ができたと言えるのではないだろうか。

## あとがき

私は安部小学校が伝統ある地域の要となった場所として、閉校はしたものの校区民の心の中では地域の拠り所として生きていてほしい。私はその伝統を伝えることができるのは、校歌であると考えている。ピアノで校歌を弾くと自然と思いが蘇ってくる。

♪ 仰げば霊峰平木山 ふしてはのぞむ八東川 桜のかおる丘の上 輝きたてる我が校舎

至誠 勤労 自治 奉仕 平和の旗をおしたてて 雄々しく進む 我が校の 誉れは永遠に輝かん  
桜が丘の名において 理想に燃ゆる若人が 文化の香りいや高く 故郷の花と咲きいでん ♪

この校歌を聴くと、1番は安部にあるのどかな風景が、2番は安部っ子の勢いある姿が、3番は『地元愛』をもって若者が故郷で動いている姿が想像できる。自分たちの道を指し示してくれる歌だ。

地域も人も時代によって考え方や様子が自然と変わる。そこに良さがあり、それに気がつけば自分のすべきことが分かるはず。新しい時代「令和」。己に対して命令として自分のすべきことを下し、人々と協調性を大事にして調和を図ろうと試みるのが大事なのではないだろうか。

## 謝辞

安部小Projectの運営にあたり、積極的にご支援ご指摘していただいている安部校区の皆さま、安部小学校校舎を貸していただいている八頭町役場総務課管財係の皆さま、アンケート調査にご協力いただいた八東小学校の皆さまをはじめ、安部小Projectに関わっていただいている皆さまに深く御礼申し上げます。

## 参考文献

安部小学校閉校記念事業実行委員会『安部小学校閉校記念誌』2017年

「まちの概要」『八頭町』<http://www.town.yazu.tottori.jp/1002.htm> 参照日：2019年3月18日



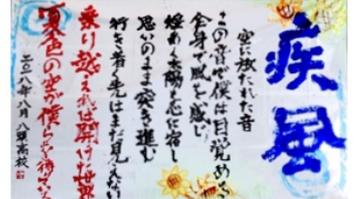
# 安部小Project

中四国ブロック代表・鳥取県  
内田 奏杜（代表）

## 溢れる『地元愛』 蘇れ！我が母校

### 【安部小Projectの概要】

設立：平成30年4月1日  
代表：内田 奏杜  
人員：15名（中3-高3）  
内容：廃校舎内清掃活動(月1回)  
『安部っ子夏祭り』企画運営  
集落行事への参加  
鳥取県事業パネラー等の参加



### 【安部小Projectの方針】

- ・教育方針『至誠・勤労・自治・奉仕』に基づき中高生の『**地元愛**』を育む。
- ・**地域の要**である小学校を活用することで校区内交流を活発にする。
- ・中高生の「やりたい！」をやってのける場へ。その実践を夏祭りで具現化する。

### 【第1回 安部っ子夏祭り】

日時：8月12日（日）16:00-19:15  
目的：地元愛の具現化,交流の活発化  
来客：約400人  
資金：八頭町企画課補助金  
内容：各集落屋台出店  
各集落伝統芸能発表  
自作映画上映(地元愛を映像に)  
八頭高校書道パフォーマンス  
青翔開智軽音演奏  
大太鼓パフォーマンス  
教員卒業生コメント

### 【受賞歴】

- ① ボランティア・スピリット・アワード  
主催:プルデンシャル生命,ジブラルタ生命  
後援:文部科学省,日本赤十字社  
結果:**中四国ブロック賞**(全国表彰式)
- ② トットリズム活動表彰  
主催:鳥取県(トットリズム)  
結果:**最優秀賞・若者活動部門優秀賞** W受賞

#### 地域の方々の声

若者が全く組織のないところから、こんな催しをしてくれるのは非常にありがたい。来年は保育所も開所するので第2回はさらに盛り上げてほしい。

これぞ安部の宝。4ヶ月という短い準備期間でここまで創り上げたことに感動。是非、来年度以降も継続してほしい。

『地元愛』を中高生が私たちに教えてくれた。代表の述べる「モノではなく心」というのは非常に大切だと感じた。

閉校前まであった校区民運動会に代替して私たち大人も交えて盛り上げていきたい。

『地元愛』を育み地域と母校を守る

## 閉校

平成28年度に安部小学校は全校児童39名で閉校した。統廃合後はスクールバスでの登下校、校区行事が減り交流が途絶えた。また、農地は耕作放棄地が多くなり、地域の過疎化が進んでいった。

## 掃除

校庭に草が生い茂っていたため、第1期の代表と副代表で草取りを8月末に行った。校舎内も掃除がしたくなり、役場に「掃除をさせてください」とメールを送ったのがキッカケで始まった。

## 設立

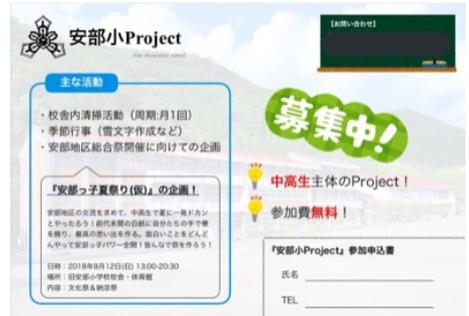
校舎内掃除に集まった人から**地域の人が集まる夏祭りを実施したい**という意見が出た。実施にあたり卒業した中高生内でメンバーの募集をした。小規模校で皆が幼馴染であるため、すぐにメンバーが集まり、Projectを設立した。

## 準備

夏祭り実施にあたり、町の補助金を活用した。役場の方には補助金以外に運営や広報についても助言をいただき、大変お世話になった。また、保険契約や行政財産、食品営業類似許可など**学校という閉塞的な環境では学べないことを体験できた。**

## 夏祭り

『**地元愛**』をテーマに創り上げ、約400名の来場者数を記録した。課題も多く残ったが、今後も継続して続けていきたいと改めて感じた。



## 第1期代表の想い

代表である私は「中高生の時に皆んなであんなことやったな」という、**モノではなく心の**記憶としてProjectメンバーの一人一人に残ってほしいと思い取り組んでいます。観光地などの有形的なモノが少ない鳥取で、モノを求めてもさほど効果はないでしょう。しかし、心の過疎化が進行せず地域交流が絶えなければ、たとえ人口が少なからうとその町は活気に湧くと考えています。清掃活動だけでなく夏祭りを開催したのは、「ここ八頭町安部に住んでいて良かった」と、**地域の要的存在**である小学校を通して『**地元愛**』を、参加した方をはじめ私たち自身が実感することに最も意味があったと感じています。自分たちがしたいことを自分たちのできる範囲です。そして地元を見つめ直し、その作用で地域活性化を図ります。

## Projectメンバーの声

- ・部活があり参加するか悩んだけど、小学校時代の友達とまた話せるのはいいなと思って参加した。
- ・中高生のノリで始めたけど、いろんところから協力してもらって、やり甲斐があるなと思った。
- ・あんなに綺麗な校舎だったのに、ほこりやカメムシだらけになって、人がいないとさみしいなと感じた。
- ・学校がなくなったのがさみしいから、盛り上げていきたいなと思った。
- ・勉強や部活などで忙しい毎日だったが、母校のためにと参加した。

## 【お問い合わせ先】

安部小Project 代表 内田奏杜  
TEL : 080-2906-5098(携帯)  
Mail : [abe.es.project@gmail.com](mailto:abe.es.project@gmail.com)



## 【広報・SNS】

Facebookで随時、活動紹介中！  
活動以外にも、安部校区の様子などを掲載しています。



公式Facebook